

みんなで「授受力」を高めませんか？！

4月、新年度が始まりました。新しい環境、新しい生活が始まった人も多い事でしょう。葦の会作業所でも新メンバー3人を迎えてスタートしました。また、先月からですが、新職員も2名加わりました。新しい生活が始まることへのワクワクとした希望と同時に、不安もたくさんあることでしょう。

さて、私たちは小さなころから「人に迷惑をかけてはいけません」と言われて育ってきました。その反面「困っている人がいたら助けてあげましょう」とも言われてきました。しかし、「自分が困った時誰に、どのような頼み方をしましょう」という事は言われてこなかったように思います。また、最近の社会では「自己責任」という言葉が往々にして使われ、以前よりもっと「困っている、手を貸して」と言い辛くなっているように感じます。それは、子供、子育て中の親、働く人、お年寄り、と年齢・性別・障がいを持つ持たないに関わらず、生きていくことがしんどい状況が多々あるように感じます。そしてどうにも身動きが取れなくなって、心を病んでしまう方や自ら死を選んでしまう方がいらっしゃるのも悲しい現実です。障がい者にかかわる法律もやっと整備されてきましたし、働き方に関する法律も考えられつつありますが、やはりその法律をよりよく活かしていくのは、日々の人と人のつながりだと考えます。



そして先日、朝日新聞に掲載された吉田穂波さんの「授受力」についてと言う記事を読みました。読まれた方もたくさんいらっしゃると思います。引用が長くなりますが吉田さんの言葉を紹介します。『人に頼ることは恥ずかしいことでなく、相手への信頼の証しです。みなさんも相談されるとうれしくなりません。誰かに相談されることでその人自身が健康になるという研究もあり、相手にもいいことです。人に頼むことで相手からも頼まれやすくなり、ネットワークが生まれます。』『生きていくうえで必要なスキルとして「授受力」(「してほしい」ことや「頼むのはあなたを信頼しているからこそ」ということをうまく伝え、感謝しながら助けを受ける技術)を高めていきましょう』『人に力を貸してもらうことを良しとする雰囲気を広まれば、働き方改革などにもつながります』4月から環境が変わる人へのアドバイスとして『心細いときは何でも聞いてみましょう。同じ不安を持つ誰かの気持ちを安心させているかもしれません。教えてもらうことで自分に力がつき、誰かを助けてあげられるようになります。新しいつながりもできます。ゼロから始まるときこそ授受力の出番です』と話されています。相手への尊敬を込めつつ「ありがとう」がたくさん言える日々を送りたいものです。障害を持つ方々は、困っている事を人に伝えることが苦手な方がたくさんおられます。少しでも自分で困っている事を伝えられるようになるよう支援するのはもちろんのこと、日々支援している者として、ご本人の困りごとを他の方たちに伝え、助けてくださる方のネットワークを作っていきたいと思っております。また、私たち働く者も授受力を高めることでより良い職場のネットワークを作り、職員がいきいきと働けることで、より良い支援ができるようにしていきたいと思います。



(池田)